

学校現場から悲鳴が聞こえる

第21回「道徳を評価するってどういうこと？」

今年の4月から小学校では道徳が「特別な教科」となり、中学校でも来年の4月から教科として始まります。教科となるので通知表には評価が記載されることとなります。通知表には記述式で評価することになっており、教育現場では評価をめぐる不安が広がっています。

記者 4月から小学校で道徳が教科として始まったことで、新聞各紙が取り上げています。朝日新聞(4月1日付)で道徳がどんな授業になるのかを特集し、歴史をひもとく形で戦前から現代までの動きを紹介しています。少し長くなりますが、全体像を掴むために引用します。

1872年の学制発布とともに教科として「修身」が設置され、1890年には明治天皇が国民教育の理念を示した「教育勅語」を發布し「修身」の中心に据えられました。戦後、修身は授業停止となり、1947年には教育基本法が制定されました。1951年に教育課程審議会が道徳教育を答申し、1958年の学習指導要領の改訂で「道徳の時間」が誕生しました。この道徳の時間は、教科書も成績評価も無く、戦前の修身の反省を踏まえた措置でした。その後、中曽根康弘政権でできた臨時教育審議会は「徳育の充実」を提言し、2002年には文科省による「心のノート」が配布されました。ただ、教科にすることには慎重な姿勢が続いたと書かれています。

では、今年から教科となった道徳にはどういった背景があったのでしょうか。

Zさん 2006年に第1次安倍政権が誕生し、教育基本法が改悪されました。教育の目標に「国を愛する態度」を書き込み、首相肝いりの教育再生会議が道徳を「徳育」という教科にするよう提言しました。この時は首相の早期退陣ということもあり、大きな進展はありませんでしたが、2012

年に第2次安倍政権ができると教育再生実行会議を発足させ、道徳の教科化を求めてきました。2014年には中央教育審議会が道徳を「特別な教科」として答申。2018年から小学校で、2019年から中学校で始まることになりました。

安倍政権に大きく関わるのが日本会議の存在です。日本会議は日本最大の右派組織といわれ、大日本帝国憲法と教育勅語の復活を目指しています。安倍氏のブレーンの一人である八木秀次氏(元高崎経済大学教授)は『教育勅語こそ最高の道徳』と言っています。日本会議国会議員懇談会には多くの自民党や維新の議員が名を連ね、安倍氏と麻生氏を特別顧問にしています。安倍内閣の閣僚のほとんどが懇談会のメンバーです。国家主義教育への回帰を目指す日本会議と今回の道徳の教科化は密接な関係にあると言えます。

記者 安倍首相の憲法九条の改憲案(1・2項は残し、3項で自衛隊を明記)は日本会議の丸写しと言われていますが、教える内容として「国や郷土を愛する態度」を設けた道徳の教科化のねらいがここにも繋がっているようにも思えます。

「道徳の時間」から教科化によって変わったことは①教科書を使う②児童生徒を評価する、という点ですが、これについてはどうですか。

Zさん 何を学ぶかということ、善悪の判断、礼儀、家族愛、伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度など学年によって 19～

22の項目を学びます。検定に合格した教科書を使うのですが、なかでも「日本教科書」に批判が集まっています。日本教科書株式会社は先ほども触れた八木秀次氏が2016年に設立した会社です。八木氏は教育再生実行会議の有識者委員でもあり、日本教育再生機構の理事長として、侵略戦争を美化する育鵬社の歴史教科書の発行に関わってきました。そして今度は道徳教科書の発行に乗り出したのです。最近分かったことですが、日本教科書会社の所在地は晋遊舎という会社にあります。この晋遊舎は韓国に対する嫌悪感や差別をあおる『マンガ嫌韓流』などのヘイト本を出している出版社として知られています。道徳と相容れないヘイト本を出版する関連会社が道徳の教科書を発行するというのは問題があります。評価の問題については小学校の先生にお願いします。

Aさん 教育課程の説明会等では、子どもたちに特定の価値観を押しつけることは絶対にやらないことと、耳にたこができるくらい言われています。これまでの道徳の時間は例えばですが、『～ということは、～はだめなんだね。わかったか？』みたいな感じで終わっていました。これからは、子どもたちが弱い自分、迷ってしまう自分も自分なんだと受け入れたり受け止めてもらったりすることが大事だと思います。押しつけはしないが、価値理解はさせる。例えば決まり事を守ることは大切。命は大切など。この行為が大切ということと、まず教員がきちんと受け止め、日々の中でそういう姿勢で子どもと触れあっていれば、自然と価値理解は広がると思っています。

Bさん 正直、評価しなくてはならないのは嫌ですね。しかも記述式です。総合、外国語、道徳と記述式の評価がまた増えるの

かと思ってしまいます。しかも、道徳は当たり障りのないことしか書けない気がします。何かの資料で例文を見ましたが、これは書く必要があるのかなという感じでした。

Zさん そもそも道徳を評価するということ自体がなじみません。「修身」の教育を受けてきた者として強く感じます。近代社会では「権力は個人の内面に立ち入ることに抑制的でなければならない」ということです。ですから1947年の教育基本法では、教育行政の役割は「条件整備」と規定したはずですが、したがって道徳教育(かつての「修身」)の復活は明らかな逆行です。国家が価値基準を決める過ちを繰り返してはならないと考えます。

記者 新聞記事によると教育委員会が文例をつくっているところもあるようです。京都府教委は150字の50文例を冊子にしたとありました。書店にも文例を載せた教員向けの書籍がたくさんあるようです。マニュアル化した文例で評価されるのは問題ですが、教員の多忙化はそうでもしないと書けないという悲鳴すら感じます。これまでもこのコーナーでは多くの問題を取り上げてきましたが、道徳の教科化という問題は、Zさんが言いますように、国家権力が個人の内面に立ち入ることであり、教育の根幹に関わる重要な問題です。教科書採択のこともあり、現場の教員だけにまかせておくのではなく、多くの父母、県民に広げていく必要があるようです。

